

5. [医療と保健の融合による健康づくり拠点整備事業について]

吉田町会場（吉田健康福祉センター）

Q3：医療と保健の融合による拠点施設の建設について。昨年度の市政懇談会では、吉田では80%の人が反対だと申し上げた。高額な事業費を投じて4万人の市民のうち、どのぐらいの人が利用すると考えているのか。維持費も膨大だと思う。ケアポートの活用充実の方向へ転換してほしい。計画に示される施設利用には送迎の対応をするとのことだが、対象人数については疑問だ。H28年度の実施設設計へ向けて既存施設の利用をするということだが、既存施設の利用充実でよいのではないか。

A：考え直してはどうかのご意見について。吉田では8割の方が反対とのことだが、そうは思わない。生涯寝たきりにならないように、足や腰が痛くても運動しているうちに痛くならないように、そして痛みの自覚がないようにしたい。足・膝・腰の痛みについては、掛合町や三刀屋町で調査を行っている。足や腰が痛いという方は80%以上いらっしゃる。高齢になって、痛くなってからの対応では遅い。子どものころからの対応により健全な体づくりが必要。東京大学副学長は身体医学研究所の所長でもあるが、水中運動が一番良いと言っておられる。既存の温浴施設は、狭いために年代に合った運動をするスペースがない状況である。加茂町にある施設はB&G財団が全国300箇所の施設として昭和62年に建設した施設。利用者人数については、現在のプールにおける6～9月の稼働時期には4,000人が利用する。新施設を建設し、その施設を拠点とし、既存施設をサブ拠点として連携し、同じメニューに基づいたプログラムで展開していきたいという考え。国民健康保険で75歳以上の高齢者の方を含めた医療費は105億円。年間1万円ずつ上がっている。今後、人口は少なくなっても高齢者の数は少なくならない。市民のみなさんに理解してもらわないと前に進めないので、平成28年度まで既存施設を存分に使って理解していただきたい。その後に建設させていただきたいと考えている。
(市長)